

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 2 月 8 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271101513		
法人名	社会福祉法人 真和会		
事業所名	グループホーム おおくさ		
所在地	〒859-0414 諫早市多良見町元釜555番地		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町受理日	平成25年2月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ 利用者中心に職員が動いており、利用者の声をよく聞いて丁寧に接している。・ 環境に恵まれ、自然の中で四季の移ろいを目の当たりにすることができる。・ 外部の来訪者より、利用者の表情が皆さん穏やかで、全体の雰囲気がとてもよいとの声をよくいただく。・ 利用者1人ひとりの個性を大切にし、それに見合ったケアプランの作成や、ケアの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当該事業所は、運営母体の特別養護老人ホーム等と隣接して設けられており、緊急時等の相互連携が円滑に取れる体制になっている。管理者は、「職員は利用者にとって家族に代わる存在でありたい」とのホーム作りを信条にしている。職員は介護経験の豊富な者が多く、管理者の意向を十分踏まえ、利用者が自然体で生活できる支援を行っている。また利用者、職員の意思疎通も良好で、ホーム内の雰囲気は家庭的な温かさが醸し出されている。「お世話をさせていただいて感謝の言葉を頂くことがありがたい」と話す職員の姿が印象的で、管理者が「一人ひとりが介護のスペシャリストになってもらいたい」と抱負を語るなど、今後一層の向上が期待できるホームである。</p>

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の理念の唱和により、あたりまえに暮らし、尊厳を大切に生活できるよう、利用者のその日の状態に応じたケアの実践に取り組んでいる。	事業所の理念を基に、認知症だからできないと決めつけず、職員の自然なサポートで自宅で過ごす同世代の高齢者の暮らしに近づける、支援を行っている。利用者一人ひとりの居室担当者を中心に利用者を見つめながら、日頃から全職員が理念を確認し話し合いを行い、実践に繋げている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園へのクリスマスプレゼントは恒例となりボランティアの音楽コンサート慰問もあった。地域の野菜販売所の催し物に利用者も参加し交流を図っている。	法人の創立記念日には地域の中学生や保育園慰問を通して、地域と演芸などを共に楽しんだほか、花見等で交流を持つなど事業所と地域が接点を持つようにしている。年末の事業所行事であるもちつきには運営推進会議を通して、地域からも参加があり事業所を知って頂くきっかけとなった。	建物内部の構造上、居住空間が2階にあるため近隣住民が気軽に立ち寄るなどの交流ができ難い状況である。地域密着型サービスの拠点であるホームの意義が理解され日常的に立ち寄って頂ける働きかけや、利用者がさらに地域と繋がることのできる工夫を期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会は解散となり発信する機会は減っているが、23年度は実習生を受け入れ人材育成に貢献すると共に、職員も指導する事で初心に返ることができた		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の報告を密に行い、事業所の様子を把握してもらっている。24年度は派出所、民生委員と2名のメンバーが加わり更に多方面からの意見が聞けるようになってきている。	運営推進会議は事業所から状況報告を行い、家族代表、民生委員、駐在所職員からより身近な情報や提言があるなど、地域の情報交換の場となっている。また行政から利用者情報、法基準に抵触しないか等の助言もあり、参加者の建設的な意見を頂くサービス向上に資する会議となっている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や窓口に訪問した際、情報の交換を行っている。互いに不明な点を解決し合い、協力して取り組んでいる。	運営推進会議での接点のほか、制度変更時の問い合わせや更新認定等の申請時に事業所の状況を伝え、相談や助言を頂き、解決に繋げている。市の事業であるさわやか相談員を受け入れている他、面会時に家族からの手続きの相談を行政に伝え繋げたこともある。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者一人ひとりへの目配り、気配り、心配りの実践により、身体拘束を行わないケアが提供できている。毎月のミーティングで身体拘束に関する認識を再確認している。</p>	<p>「ちょっと待って」を言わない事を大事に考えている。利用者本人が窮屈な思いをしないことを大前提に、必ず離れる理由と具体的に待つ時間を伝えるようにしている。また利用者個々人の動きのサインを見逃さないように、細かな気づきを申し送りノートに記載し職員間で情報を共有している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>特に気付きにくい心理的虐待について職員同士で指摘し合い、見過ごされないようにしている。定期的に勉強会を開く事で、意識付けの機会も設けている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員が制度を認識している。現在、対象となる利用者はいないが、今後、対応が生じた場合は、必要に応じて支援していく。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、利用者や家族との話し合いの中で、望む暮らしを聞き出し、事業所の方針を説明、納得してもらっている。重度化に伴う方針は文書により同意を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見・要望を言い難いという事を十分理解し家族の立場に立って日々のケアを客観的に見直している。面会時や必要に応じて電話で状態を報告し、家族の意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>家族からの希望にはなるべく添うようにし、遠方の家族とは手紙のやり取りで状況報告を行っている。意思をつまなく表出できない利用者の小さなサインに気づき、家族に問いかける事で、異性介助の対応や個人への更なる気配りなど業務改善へつなげた。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングや申し送り、日常の会話の中で、職員が意見を出しやすいような雰囲気作りに努め、出された意見には迅速に対応して利用者のケアの向上につなげている。</p>	<p>毎月のミーティングでは職員が交代で、各々が意見や気づきを出しあい、職員同士が互いに補完している。担当利用者に対するカンファレンスでは個々の職員の視点や意見を聞き、介助に切り替える瞬間等職員全員でケアの統一のための提案が積極的に出され、運営に反映されている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>キャリアパスの活用により、目的を持ち達成感を味わう事で更なる意欲の向上につなげている。代表者は個々に面談を行い、業務や悩みを聴く機会を作っている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加し自己研鑽の機会を設け、各分野でのエキスパートの育成に努めている。事業所内では個々の能力を発揮する事ができている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の連絡協議会主催の定例会への参加や、同法人内での交流を通し、ネットワーク作りができている。意見交換により得た情報や知識をサービスに反映させている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談を必ず行い利用者の要望や思いに向き合うようにしている。事業所の様子も詳しく伝え、安心して生活が始められ居場所が確保できるように努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談や、事前見学で事業所を見ていただき、家族の要望に応えることができるかどうかを話し合っている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントをしっかり行い、速やかに対応することと時間をかけて対応することを見極めそれぞれのニーズに対応している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に笑い喜びを倍にして、共に悲しみ痛みを分かち合っている。利用者、職員がそれぞれ出来ない部分を補って互いに支え合いながら生活している。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の協力のもと利用者の生活を共に支援している。職員では出来ない家族の役割を十分果たしてもらっている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の高齢化により外出して会いに行くことは困難になってきている。利用者の知人、友人や馴染みの人が訪問しやすいような雰囲気作りに努めている。</p>	<p>家族や知人の訪問が多く、法事や結婚式などの家族行事にも職員同行で参加し、馴染みの方々と時間を共有し楽しんだ。また、面会が途切れがちな家族には、本人の表情やしぐさから寂しさに対する気持ちに寄り添い、本人の気持ちを代弁し家族との面会に繋げている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日食卓を囲み活動の場で交流し合い一緒に時間を過ごす事で、よい関係作りが着ている。コミュニケーションが困難な利用者は職員が間に入り気持ちを代弁している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用終了は病院への入院が主で家族と連絡を取り合い面会に行く等して関係を続けている。利用者が生活の場が変わっても同じケアが受けられるよう情報提供している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わり合いの中で、言葉や仕草、表情から思いを汲み取るよう努めている。また、日頃より家族との情報交換を密に行う事で信頼関係を築き、御家族と共に本人の立場に立って意向を検討する事ができている。</p>	<p>起床や就寝時間は各個人に合わせて、本人が望む暮らしができるように担当職員が、細やかな心の動きを汲みとっている。静かな生活を好む利用者については、活動を無理強いせず、利用者の気持ちに寄り添い、各個人の意向に合わせたケアを行っている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>新規利用者に関しては、本人や家族に話を聞いたり、サマリーやケアプランに目を通して把握に努め、以前と変わらず本人らしく暮らしていただけるよう、情報を役立てている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人一人の生活リズムを理解し、個々に合わせた臥床時間を取り入れる事で、心身の状態が安定したものになるよう努めている。また個々のレベルに合わせた家事的作業に取り組んでもらい、役割意識や存在意識を持ってもらっている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成前に本人、家族に要望を聞き、プランに反映させている。カンファレンスの場を設け、職員間で意見を出し合い、個別の体操や散歩、ぬか漬け等、本人、家族の要望に沿った計画作成を行っている。</p>	<p>ケアプランの作成は、担当職員が行い、ケアカンファレンスで意見を出し合いながら、職員全体で作られている。ケアプランは、誰が見てもわかりやすい言葉で記述され、生活習慣に沿った内容となっている。評価は介護記録の回数や本人の言葉、表情を基に継続、変更を決定している。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子は、毎日個々の記録に記載し、全員分を一冊のファイルにして確認しやすいようにしている。また申し送りや必要事項は都度口答で伝達し、職員間の情報共有ができており、介護計画の見直しにもつなげている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療面でのニーズには状態、状況に応じ受診、往診、電話報告等、柔軟に対応できている。また食事面では嗜好調査を実施し、本人の嗜好に合わせた代替品を提供する等の対応を行い、毎日の食事を楽しくももらえるよう工夫している。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のなじみの美容師に定期的にカットをお願いしている他、関連施設に本人と関係のある理髪ボランティアが来荘した際は、本人も利用できるよう協力を依頼している。また、人形劇のボランティアに来荘してもらい、交流を図る機会もあり、刺激にもつながっていた。</p>		
30	11 <p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者に変化見られる時には状態に応じ電話報告、受診支援を行っている。かかりつけ医には定期的に報告を行い、また身体だけでなく、精神面についても報告し、全体的な連携を築いている。</p>	<p>個々人のかかりつけ医を継続し受診支援を行っている。月1回の往診の際には、職員の気づきを、個人の上申事項として連絡帳に記載し、医療担当者へ確実に報告することで医療との円滑な関係ができています。また医師の説明を家族と一緒に聞くことで医師との繋がりが強くなることもある。</p>	

31	<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員配置していないため、介護職員が利用者の変化を密に観察対応行なっている。必要時には母体施設の看護師に連絡相談し、助言や対応をお願いしている。又看護師による医療内容の施設内研修にも参加し、介護職員でも意識を持って取り組んでいる。</p>		
32	<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には利用者の情報提供し、入院中も同様の支援が受けられるよう依頼している。また頻回にお見舞に行き本人の状態把握に努めると共に、看護師、医師らに情報聞き出し退院後の受け入れに備えている。入院中は家族とも連絡取り合い、本人、家族の不安軽減にも努めている。</p>		
33	12 <p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期のあり方については、グループホームとして出来る最大の援助、支援内容を説明、意向の確認を取っている。急変時だけでなく日頃から利用者の心身状態をこまめに報告する事で終末期に向けての利用者の変化を受け入れてもらい、又時には受診同行依頼し、医師から直接話を聞き、全体的な連携を図っている。</p>	<p>現在、終末期の対応は行っておらずホームで、できること、できないことなど事業所の方針を明確にし、家族の同意を得た。家族の希望や情勢を考慮し、今後研修等で知識を深めるなど対応も検討しなければいけない時期にきていると考えている。</p>	
34	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応については、定期的に研修に参加、他職員にも報告し内容を共有している。また実際に起きた急変（転倒）事故の対応についても、ヒヤリハット会議で取り上げ、全職員で対応の見直し、内容の把握に努め職員の意識の向上に取り組んでいる。</p>		
35	13 <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を実施している。又、消防署立会いのもと真和荘合同の夜間非難訓練を実施している。地元消防団や自治会の協力も確保できている。</p>	<p>事業所自主訓練の他、法人の避難訓練にも参加し、経験を重ねたことで誘導に時間がかかることや車椅子利用の避難では非常口が塞がれてしまう気づきを得た。自然災害の際は、自衛意識を強く持ち日頃から話し合いがなされている。備蓄品や個人情報ファイルの整備も整っている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝、「尊厳を大切に」を職員全員で唱和し一人ひとりお世話をする方であった接し方ができるように心がけている。居間や居室など生活空間に応じてプライベートに関する内容の会話をする際は特に配慮している。また、言葉かけをする際もその人に合った姿勢と口調、目線の高さで伝わりやすいようにしている。	職員の入室の際には必ず「失礼します」と言葉かけをしプライバシーに配慮をしている。毎日生活をしていると慣れ合いになりがちであるが、「日本の大事な時期を築かれた方」という尊敬の念を持って接している。トイレの声かけは羞恥心に配慮し、周りに悟られないよう小声で行うなど心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居間、居室、トイレ、屋外などの生活空間に応じて声かけの内容をかえ自然な流れの中で希望や要望などが引き出せるようにしている。見守りは絶えず行い、言葉にならないサインが出ていないかを見逃さないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、その人に合ったペースで生活をしてもらっている。活動は好みに応じて多種類を用意し、すすんで選んでもらえるようにしている。バイタル状態など健康に関する情報はこまめに伝えながら希望に沿った生活をできるだけ安心して楽しみながら行えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時には各自好みの服を選んで頂き、お化粧の習慣がある方は毎朝のお化粧を日課としている。常に清潔な身だしなみが保てるよう服装の乱れや汚れには随時対応している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の好みを把握し、嫌いな食材に対しては代替品を提供している。食事の準備を手伝ってもらったり、畑では種まき、苗植えから参加して頂き野菜の成長や収穫を楽しんでいる。	手作りの箸置やランチョンマットは、誕生会や行事など特別な日の意識付けに使用され、利用者からも大変喜ばれている。手作りのらっきょ漬けを作ったり、じゃがいもの皮むきなど利用者ができることをお願いし、自分の役割を持って生活を楽しむことができるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はその都度記録し一人ひとりを把握している摂取量の少ない利用者には補食で栄養を確保し、水分補給においては定期的にお茶を提供し居室にも水筒を置いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各自口腔ケアを行い、十分に出来ない方には磨き直しを行っている。義歯は週2回洗浄剤を利用し清潔保持に努めている。又歯科医師と連携を図り定期健診、治療を実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンに合わせて、随時対応している。共同トイレでの排泄が困難な方にはPトイレや差込便器を使用してもらい、可能な限り要望に沿うよう対応している。	基本的に排泄はトイレで行えるよう排泄チェック表を基に声かけを行っている。ほとんどの利用者がトイレ誘導しトイレでの排泄に繋がっているなど個々に合わせた支援がなされている。また、トイレには清拭機を設置し、常に蒸しタオルと温水ボトルが準備され、清潔や臭気に対する配慮が窺える。	

44	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に有効な食材を取り入れた献立で食事提供している。便秘がちな方には牛乳の提供や下剤の調整を行い、全員が取り組める運動として毎日ラジオ体操を実施している。		
45	17 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人一人の体調や希望を確認しながら、入浴を行っている。個々の意向に合わせた入浴方法で、工夫しながら取り組んでいる。	2日に一度の入浴を基本とし、利用者の希望があれば毎日の入浴も可能である。時間帯についても、毎回本人に「午前、午後どちらがいいですか」と尋ね、入浴の間隔や時間帯を調整しながら一人ひとりの希望に添えるよう支援している。	
46	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮し、日中の活動状況に合わせて臥床を促し、休息を取り入れている。寝付けない時にはトークンしたり温かい飲み物を提供する等の配慮を行っている。		
47	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を把握し、十分な注意と確認を行って与薬している。心身の状態観察に努め、変化がみられた際は速やかに御家族とかがりつけ医に報告を行っている。		

48	役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備や裁縫、生け花や漬物作り等、利用者一人一人の得意分野や趣味を活かした役割を見つけ出し、力を発揮してもらっている。畑で季節の野菜を育て、それを収穫することも楽しみの一つとしている。		
49	18 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から屋外散歩、気候の良い季節にはドライブを計画し、積極的に外出している。また普段行けないような場所でも、本人の希望に沿って、外出できるように、職員間の調整を行い、家族への依頼をする等して、実現できるよう努力している。	日常的に近所の海岸や、お弁当をもって地域の公園へ出かけるなど、気分転換への配慮がなされている。また靴を買い替えたい等の目的があればショッピングモールに出かけ買い物を楽しむ事もある。受診後お寿司やうどんを食べて帰ることもあり、利用者も楽しみにしている。	
50	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し取り使えるように支援している	利用者のお金に対する訴えに耳を傾け希望に合わせて少額を持ってもらい本人の安心感に繋げている。外出時には職員が付き添い買い物を行い支払い時には自分で払って頂けるようにお金を渡すなどの工夫を行い日常的な行為を実感してもらう。		
51	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望の時間と場所で電話が出来るよう実施している。プライバシーに配慮しながら電話の子機も使用して自室内で会話を楽しんで頂く。毎年年賀状を出す為の支援を欠かさずに行い利用者の希望に応じて代筆も行っている。また利用者と相手方の関係を良好に保てるよう電話する時間帯に関して提案する事もある。		
52	19 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房機、加湿器、温風ヒーター、扇風機、換気扇、温度計、次亜水噴霧器を相互に活用し時事に応じて快適な空間を作っている。また好みの音楽やテレビ、新聞、本等の読み物を楽しんでもらい季節の花々や飾り物も取り入れて五感を通じて居心地よく過ごせる様支援している。	利用者が過ごす生活空間は整然と生活用品が並び、清潔感にあふれている。職員手作りの掲示板は行事予定など季節感を考慮し、また利用者の作品も彩りよく飾り付けされていた。食堂には自然と利用者が集まり会話と共に笑い声が聞こえ、利用者と職員の温かな関係性を窺うことができた。	
53	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い自分の居場所を見つけやすいように椅子、3～4人掛けのソファ、1人掛けのソファ、テーブルを置き1人で過ごしたり利用者同士がくつろげるスペースがある。また玄関ホール、吹き抜けスペースにもソファやテーブルを置き花や飾り物で居心地の良い空間を作っている。		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やタンスなどは馴染みの物を活かし居心地の良さを配慮している。できるだけ本人と家族の希望に沿うように居室内の家具は配置しているが安全上の問題がある際は相談し家具や物の位置を把握し本氏の立会いなしに無意味に動かす事がないようにしている。	使い込まれたタンスや自宅からの鉢植えなど思い思いのものが設置され、本人が好きな花やぬいぐるみなどを飾る事で寛げる空間の配慮がなされている。ポータブルトイレは日中別室で保管され、清潔で快適な空間への配慮が感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の状態変化に考慮し利用者の現在の状態に応じた環境整備に努め状態の変化や新たな混乱や失敗が生じた時は都度職員で話し合い本人の不安を取り除き自立支援に繋がっている。過介護にならないようにまずは見守りに努め安全確保が自立出来ない利用者に対しては安全第一のもとに介助を行い、そのうえで自立できる部分を妨げないようにしている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく。 (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない